

## もち性大麦品種「ホワイトファイバー」の特性と品質向上技術

### 1 背景・目的

もち性大麦は水溶性食物繊維「β-グルカン」を多く含むため、近年の健康志向を背景に需要が高まっている。そこで、もち性大麦品種「ホワイトファイバー」の県内普及に向け、特性と品質向上技術の検討を行う。

### 2 技術のポイント

- (1) 「ホワイトファイバー」は「ファイバースノウ」より出穂期が1日、成熟期が2日早く、やや多収で硝子率が低く、β-グルカン含有率が高い(表1)。
- (2) 「ホワイトファイバー」は「ファイバースノウ」用の基肥一発肥料に加えて消雪期及び止葉展開期追肥により、β-グルカン含有率を向上させることができる(図1)。ただし、止葉展開期に窒素で4kg/10a以上追肥した場合、硝子率が許容値50%を上回るため、消雪期及び止葉展開期に窒素で2kg/10aずつの追肥が望ましい(図2)。

表1 ホワイトファイバーの特性(農業試験場;金沢市才田町、平成27~30年)

品種名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	子実重 (kg/10a)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	千粒重 (g)	容積重 (g/l)	硝子率 (%)	β-グルカン 含有率 (%)
ホワイトファイバー	4/22	6/2	568	99.0	5.2	360	35.6	672	34.2	6.4
ファイバースノウ	4/23	6/4	526	97.2	5.2	355	37.9	679	54.2	4.2

10月中旬播種。2.0mm調製の平均値。ただしβ-グルカン含有率は2.2mm調製し、55%搗精した値。

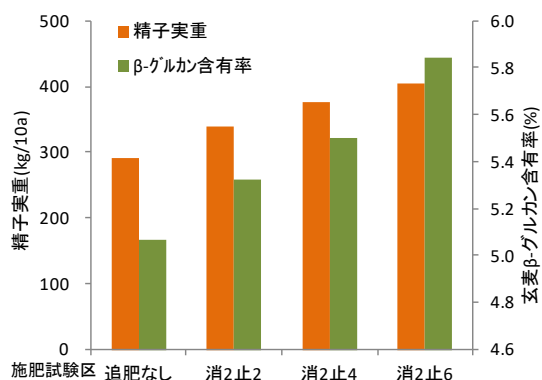


図1 消雪期及び止葉展開期追肥による収量とβ-グルカン含有率に及ぼす影響

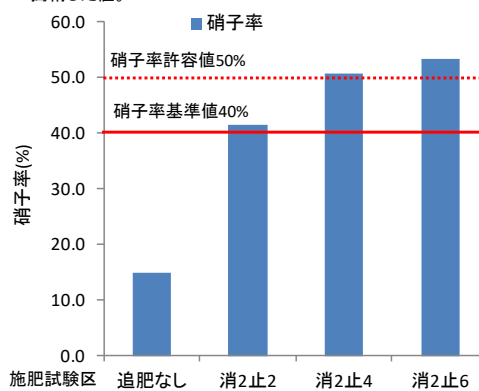


図2 消雪期及び止葉展開期追肥が硝子率に及ぼす影響

追肥なし：基肥一発肥料 N=13.6kg/10aのみ  
 消2止2：基肥一発肥料 N=13.6kg/10a+消雪期 N=2kg/10a+止葉展開期 N=2kg/10a  
 消2止4：基肥一発肥料 N=13.6kg/10a+消雪期 N=2kg/10a+止葉展開期 N=4kg/10a  
 消2止6：基肥一発肥料 N=13.6kg/10a+消雪期 N=2kg/10a+止葉展開期 N=6kg/10a  
 収量・品質は2.2mm調製

### 3 成果の活用と留意点

- (1) 県内大麦産地に適用できる。
- (2) 施肥試験は、場内における単年(H30年産)の結果である。

問合せ先：育種グループ TEL 076-257-6911

担当者：中野知行・水内友美子・猪野雅哉・松谷瑛

本研究は農研機構生研支援センター「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」及び「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援を受けて行った。